

都市での小動物遺骸の処理状況

株式会社島井組プラント
三谷 光平

1. はじめに

前回、本誌(2024年、第194号)で株式会社島井組プラントが開発した、「小動物焼却炉」の紹介をしました。東大阪市、大東市は、このような専用の施設(写真-1)、(写真-2)を設けて、ペット等の遺骸も丁寧に処理をしています。今回は、ここでの小動物の処理量(=遺骸の発生状況と仮定)について、報告します。1年間を見た場合、ねこや犬の遺骸の処理量の変化がどれくらいあるのか? 1ヶ月の処理量の変化がどれくらいあるのか?

2. 小動物の処理量の1年分のデータ

前回報告した2021年度のデータの処理量と処理件数、それに伴う処理量/件数を小修正しました。また、2022年度の処理件数を修正しました。さらに、重量の表記は、鳥等の軽い物も評価しやすいように、kg以下2桁としました。

下表は、人口と小動物の処理量です。

年度	人 口		処理量 kg	処理件 数	処理量 /件数 kg
	東大阪市	大東市			
2021 (令和 3 年)	485,928	117,891	14,757 .47	4,472	3.30
	603,819				
2022 (令和 4 年)	479,294	117,294	11,458	4,104	2.79
	596,588				

小動物の処理量(段ボール、ビニール袋等を含む重量)等は上記の通りで、民間の動物処理量は含まれません。人口 60万人で、11.5トン~15.0トン/年



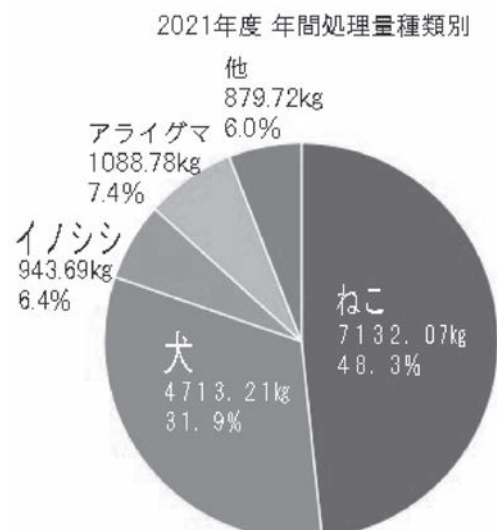
写真-1 小動物焼却施設 正面



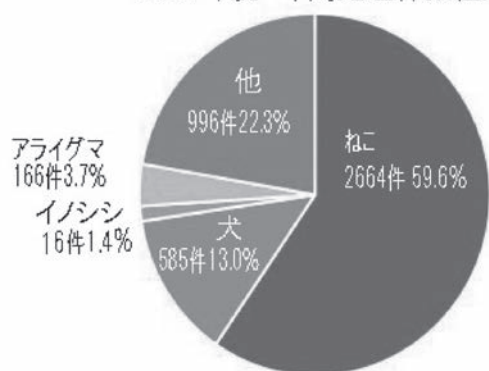
写真-2 小動物焼却炉 (施設内)

3. 2021年度の遺骸処理量

年間総処理重量14,757.47kgのうち、ねこが7,132.07kgで、48.3%を占めています。次に、犬が4,713.21kgで、31.9%を占めています。従って、ねこと、犬で合計80.2%を占めていることがわかります。イノシシについては、イノシシそのものであったり、肉を取った後の残材が持ち込まれています。アライグマの場合は、害獣として、捕獲したものが、持ち込まれています。



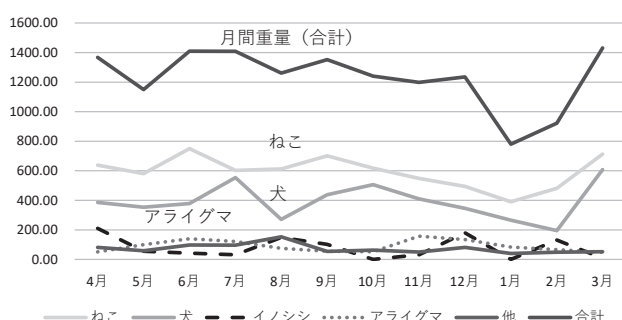
2021年度 年間処理件数種別



一方、処理件数でも、種類別にみて、ねこが、4,472件中、2,664件と59.6%を占めています。次に「他」が、996件、22.3%です。「他」に含まれているのは、鳥類(カラス、ハト、サギ、スズメ)。これらは、野生動物で行倒れたもの。ねずみ類(うさぎ、ラット、イタチ、ネズミ、マウス)は、野生とペットです。

4. 小動物処理量、処理件数の年間推移

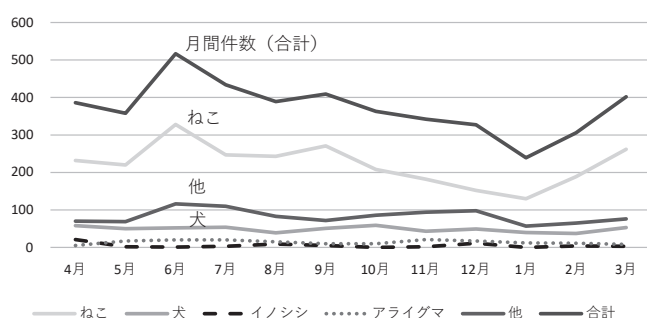
動物ごとの月間処理重量推移(2021年度)



ねこ、犬という順序は変わりませんが、冬場になると、処理量が減っています。生誕のリズムをあらわしているのでしょうか？

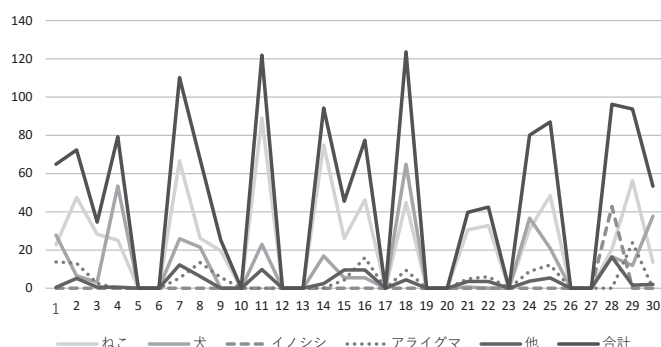
件数の年間推移も、1月まで右肩下がりの傾向は同じです。

動物ごとの月間件数推移(2021年度)



5. 1ヶ月の処理日量の変化

2021年6月 日処理量変化



6月は年間処理重量の最も大きな月であります。横一線になっているのは、土曜日の休止の日であり、飛び上がって山になっているのは、3日分を処理している月曜日(6月7日、6月14日、6月28日)です。また、遺骸が少ないため運転を取りやめた日の翌日は、2日分の処理をするので6月11日、6月18日は山になっています。

下表のように、運転日変更で、5日分の運転休止が可能となります。

実績		
6月処理量kg	運転日数	日最大実績kg
1409.27	19日	121.92
1, 2, 3, 4 7, 8, 9, 11 14, 15, 16, 18 21, 22, 24, 25 28, 29, 30		
改善案		
1409.27	14日 X 121.92 = 1706.88	121.92
1, 3, 4 7, 9, 11 14, 16, 18, 21, 23, 25 28, 30		

ただし、最大級の犬が入ってくると再検討が必要かもしれません。



写真-3 69.13kgの巨大犬

5. まとめ

処理量データを、さらに分析すれば、いろいろなことが発見できます。一つ明らかなことは、大多数の日本人にとってペットとは、多くは「ねこと犬」ということです。